

● ライブラリー

中庭の北側に配置したライブラリーは、店舗との取り合いで何度か廃案の危機にさらされたが、ここも踏張り残すことができた。ここから、中庭オープンゲートテラス、シダレ桜、そして、整備されたモミジの公園を借景とした樹々を眺めることが出来る。

高密にならざるを得ない集合住宅の中で、60m程の奥行にシダレ桜と公園の借景を楽しめる空間は、豊かなものになるに違いないと思い、何としても創りたかった。

一人の時間を好きな本と借景を持った豊かな景観の中で過ごす時間は、心を穏やかにしてくれるはずである。



西側エントランス・ラウンジから中庭を見る。
柱：白河石

西側エントランス・ラウンジ
(奥に見えるコンソールとフロアスタンド)

ライブラリーから中庭を見る。

● マテリアル

- 今回のプロジェクトのマテリアルとして特筆すべきは、**外壁タイル**と基壇部に使用した**白河石(黒目)**である。

- 外壁タイルは、無釉のせっ器質タイルで窯元は岐阜の瑞浪市。

今回のような独自の面状を出すため、1点1点を手で荒してから還元焼成を行い色むらを出すハンドメイドのタイルであり、実際職人の作られている現場を見ると頭が下がる。コスト等の問題もあり、このタイルを使えるか否か紆余曲折したが、何とか使う事が出来た。

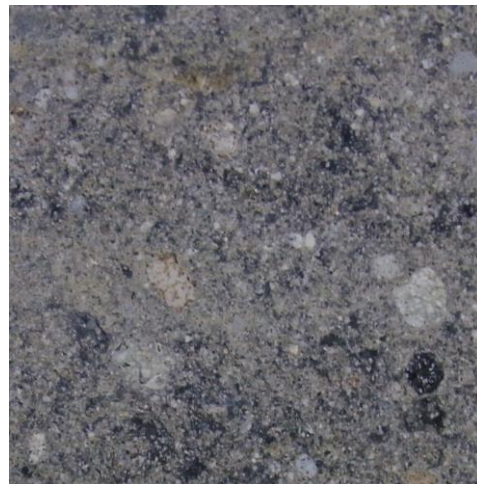
同種のタイルは外壁の**マグサ**、**窓台**にも用いられ、外観マテリアルの最も大事な要素となっている。

色、形状、面状等種々の角度を変え検討を行い試作を6ヶ月程繰り返し、今回のタイルに辿り着いた。

- 建物基壇部に使用した白河石(黒目)も、コスト面から代替品の提案が何度か出されたが、当初の意図した白河石(黒目)を貫いた。白井石材の白河石は、素朴でありながら落ち着きのある肌合い(素材感)を持つ。この石には、白目と黒目があるが、黒目は石の斑(フ)が黒くなっており、更に趣のある表情を持つ。しかし、コストも白目より50%超上がるため、通常は代替案により、実際は中々使用されないが、今回の外壁は、このせっ器質タイルと白河石(黒目)の構成が、凛として落ち着きのある邸宅感を出すのに最も相応しいはずだとの強い意志が働いた。更にせっかくの黒目を張り物に見せたくなかつたので、エントランスの主要な部分分は、お願いして石厚を通常の35mmから70~100mmとしてもらい、組積的な小口の見せ方とした。



タイル
(60mm×205mm×t13mm)



白河石(黒目)
(t35mm)